

百丈山大智寺は和東郷湯舟の奥小杉村にあり。〔鷲峯山のひがしなり。郷口より山田を越て湯舟に至れば四里余なり。原山よりはひがし一里に在り。禪宗にして江州山上永源寺に属す〕開山大観禪師、諱は理有、字は大有、奥州金家の子なり。出誕より不言こと六載にして、始て語つて曰、われは是良辨なり。父母大に奇み遂に出家となす。夫より諸の知識に謁して経論を曉し、壮年の時近州甲賀に住し、常に和州安倍文珠を尊信し、参詣の志願を企、此湯舟村を過るとき、柚木の智君が家に入て茶を喫して憩ふ。あるじの曰、当山に山水の佳境ありと告る。師則栢実一斗を携てかの山に登り、巖上に坐禅する事一千日なり。ある時側の巖二つにさけて文珠菩薩出現し、空中に在す事暫くにして去、師大に歡喜して岩頭を下り、残櫃の半斗を道に蒔、頓て芽を生ずる事数千本して林となる、今小杉村の櫃木原これなり。其後此所に一字を建立して文珠の像を安じ、百丈山大智寺と号す。本願は山名伯耆守なり。〔開山は明德二年二月十六日化す、四十歳、勅諡を大観禪師と賜ふ。第二世は大機禪師、又た中興如雪文巖和尚は東福門院御帰依ありて仏殿再建したまふ〕

仏殿の本尊釈迦仏は安阿弥の作なり、方丈には文珠の像有り。又後水尾院の牌を安置す。

坐禅石〔方丈のひがし十町余にあり、高さ三十間横幅二十間、頂上の平方十町ばかりなり、傍より此所に登る道あり。

大観禪師一千日坐禅し給ふ所なりとぞ〕文珠岩〔岩面劈わかれて文珠大師あらはれ給ふ所なり〕布引石〔岩面白色にして布を引きし如くなり〕大鼓岩〔形大鼓に似たるなり〕